

維新史 回廊だより

第8号
平成20年
(2008年)
6月発行
(年4回発行)

編集 維新史回廊構想推進協議会
発行 山口県環境生活部文化振興課(山口市滝町二一〇八三一九三三二二六二七)

◇はじめに◇

いつも「維新史回廊だより」をご愛読いただきありがとうございます。前回に続き、毛利博物館に所蔵されている史・資料を紹介しながら、天皇と毛利家の関係を中心に幕末維新史を考えていきたいと思います。解説は、毛利博物館の小山良昌館長です。

◇天皇と毛利家。そして明治維新 その二◇

■前回の概要

毛利家は、その始祖大江広元が、平城天皇の御子阿保親王の血筋を引いていたことから、伝統的に朝廷との関わりが強く、経済的な面も含め朝廷を支援し、また朝廷からも信頼されていました。

幕末期の孝明天皇は、幕府が天皇の意に反して日米修好通商条約を締結したことに危機感を抱き、長州藩に対し、万一の時には内裏を守る「天下の忠臣」となることを期待する密書を送ります。長州藩はその意に添えて、朝幕間の周旋に動き、長井雅楽の「航海遠略策」による公武合体策を推進します。一方、幕府の政策に反発する久坂玄瑞らの尊王攘夷派は長井排斥に動き、天皇のご意向も「攘夷で朝幕間を周旋せよ」に変わったので、藩はやむなく破約攘夷へと苦渋の選択をしました。やがては、長州藩は朝廷に働きかけ、將軍家茂の随従のもと天皇の攘夷祈願の賀茂神社行幸を実現するなど、攘夷の機運を盛り上げていきます。そうした中、朝廷の強い督促に応える形で、ついに幕府は文久三年(一八六三)五月十日を攘夷期限と決定しました。

○攘夷は実際に行われたのですか。

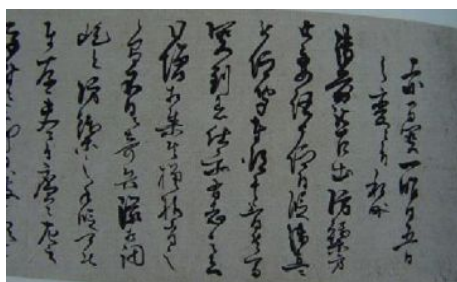
文久三年五月十日、長州藩は攘夷の期限を厳守し、下関海峡(関門海峡)において外国船に発砲を加え、攘夷を決行しました。最初はアメリカの商船、次いでフランスの軍艦、オランダの軍艦と相次いで外国船を攻撃し、全国の各藩中では唯一、長州藩だけが攘夷を決行したのです。

この決行は日ならずして山口の藩庁即ち藩主敬親へ達し、直ちに朝廷・幕府へも報告されました。この長州藩による攘夷戦争の実態は、初戦こそ勝利を収めたかに見えましたが、第三次のオランダ軍艦には反撃を受け、報復のために来航した第四次のアメリカ軍艦、第五次フランス軍艦には攻撃を受けて下関海峡の長州陣砲台は破壊され、一部フランス兵の上陸を許す結果となったのです。

○諸外国に攻め込まれた長州藩は、どのような対策をとったのですか。

この攘夷戦での危機に際し、藩主敬親から下関防衛を一任されたのが、藩の少壮エリート官吏で将来を嘱望されていた高杉晋作でした。指名を受けた高杉は急遽下関へ急行し、同年六月七日、豪商の白石正一郎宅において奇兵隊結成綱領(写真1)を作成しました。高杉は馬関防衛に当たる軍隊の結成について、「有志者の集まりだから、藩士、陪臣、軽卒を選ばず同様に交わり、専ら力量を貴ぶ堅固な隊を作る」ことを目的に、土農工商人を問わず「志」をもった力量ある人物本意に採用することとし、新しい形の軍隊である奇兵隊を結成しました。

この奇兵隊命名の由来は、「少ない兵力で敵の虚をつき、神出鬼没、敵をなやまし、常に奇道をもって勝ちを制するのが目的である。したがって



〔写真1〕奇兵隊結成綱領(毛利博物館所蔵)

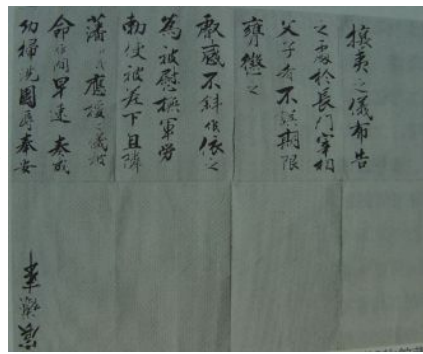
奇兵隊と命名する」と述べ、今で云うゲリラ兵をもって自任しようとしていたのです。この奇兵隊の結成を皮切りに、藩内には同年末までに遊撃隊、荻野隊、八幡隊、集義隊、義勇隊、鷹懲隊などの諸隊が続々と誕生しました。これら諸隊は、その後藩の旧体制を打破する先兵としての役割を担い、討幕運動にも参加し、維新回天事業に大きな役割を果たすこととなったのです。

○攘夷決行に対し、朝廷や幕府の反応はどうだったのですか。

長州藩が苦戦を強いられている詳細が朝廷にもたらされると、朝廷では長州藩を激励する監察使正親町少将を山口に下向させ、「期限を誤らず直ちに攘夷を決行した長州藩に対し、天皇は大変お喜びになつておられる」という内容の攘夷の褒勅(写真2)をもたらししました。その後、監察使は下関の戦地を巡視し、兵士を督励して帰京しています。

一方、攘夷戦からやや日を置いた七月、

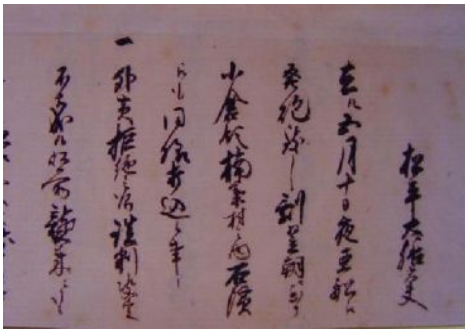
幕府の詰問使中根一之丞ら一行八人が、幕府軍艦朝陽丸に乗って下関に到着し、外国艦砲撃についての詰問書を提出しました(写真3)。幕府がい



【写真2】 攘夷の褒勅 (毛利博物館所蔵)

うところの「攘夷」とは、「外国船が海岸を劫掠し、畿内に闖入の程も測り難き候」として、外国船が無法を働いた場合には攘夷を行え、程度に考えていたのです。したがって、長州藩が突然、無防備の外国船を攻撃して攘夷を決行した行為は詰問に値し、詰問使中根を派遣したのです。

これに反発した長州藩では、壮士達が詰問使一行を次々に殺害・暗殺し、最後に残った詰問使中根のほか二人を、三田尻中関の舟中にて殺害してしまいました。また、



【写真3】 攘夷発砲に付尋問書 (毛利博物館所蔵)

中根一行を輸送した幕府の軍艦朝陽丸は壮士達が抑留していましたが、幕府の報復を恐れた藩では、世子毛利定広を派遣して、壮士達に朝陽丸の解放を説得しましたが説得に応じず、最後は藩士の吉田稔磨が説得に当たつてようやく朝陽丸を解放したのです。

○攘夷まで行つた長州藩が、一転、朝敵となつたそうですが…。

攘夷の褒勅を下賜され、天皇の信任が厚いと信じてきた長州藩にとって、文久三年八月十八日の政変は正に青天の霹靂でした。長州勢は突然京都から追放され、三条実美をはじめとする長州寄り攘夷派の公家の七卿は長州に向けて下向しました(七卿都落ち)。長州藩内ではこの政変は天皇の誤解に基づいた行為であるとして、天朝に対する雪冤(無実であることを明らかにする)運動が起り、君側の奸臣(会津・薩摩藩)を除くための京都進発論が高まって、翌元治元年(一八六四)七月、家老の福原越後、益田右衛門介、国司信濃に率いられた京都進発軍が京都御所の蛤御門の変をおこし、逆に大敗北を喫してしまいました。その上、御所に向けて発砲した廉により長州藩は逆に朝敵とされ、朝廷により長州藩追討の命が幕府に下り、幕府による第一次長州征伐を誘引したのです。

驚いた長州藩内では、幕府に対して「謝罪恭順」を表明する俗論派(保守派)が藩政を牛耳り、京都へ進発した三家老や参謀四人に切腹を命じて責任を取らせ、幕府・朝廷に対して謝罪しました。

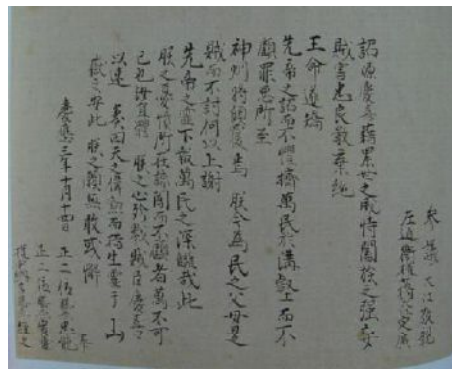
○幕府への恭順派が大勢を占める中、攘夷派の人々はどうしたのですか。

この俗論派政権に反旗を翻したのが高杉晋作で、同年十二月下関功山寺で挙兵するや、奇兵隊など諸隊とともに大田・絵堂に進み、藩の正規軍と戦つてこれを破り、俗論派政権を追放して藩論を「武備恭順」の討幕路線へと導いたのです。

この長州藩の変節に対し、徳川幕府は慶応元年(一八六五)第二次長州征伐を決定し、西国三十二藩に長州への出兵を命令したのですが、多くの藩ではその命令を不服として出兵には消極的でした。そのため、第二次幕長戦争(長州では四境戦争と云う)は翌慶応二年(一八六六)六月になつて漸く開始されたのです。その間、同年一月には長州藩と薩摩藩との間に軍

事同盟（薩長同盟）を結んで幕府に対抗したこともあって、戦況は長州藩優勢の内に推移しました。一方、戦争最中の七月には將軍家茂が逝去し、同年十二月にはわずか三十六歳の若さで孝明天皇が崩御されるなど政治的な混乱が続き、幕府も戦争の継続は困難と判断して止戦を告示し、十月には幕軍の撤兵が完了して長幕間の和議が成立しました。

○長州征伐に失敗した結果、幕府はどうなったのですか。



〔写真4〕 討幕の密勅（毛利博物館所蔵）

慶応三年（一八六七）十月十四日、突如徳川將軍慶喜は大政の奉還を朝廷に申し出て、翌十五日朝廷はそれを受け入れました。薩長同盟以後、密かに討幕運動が進展する中での將軍の表明でしたが、奇しくも同じ十月十四日、討幕派は薩長両藩主に宛てた徳川慶喜追討の勅書及び会津・桑名両藩追討の密勅を入手しました（写真4）。

この幕府（慶喜）追討密勅は、正親町三条実愛より薩摩藩主宛の密勅は大久保

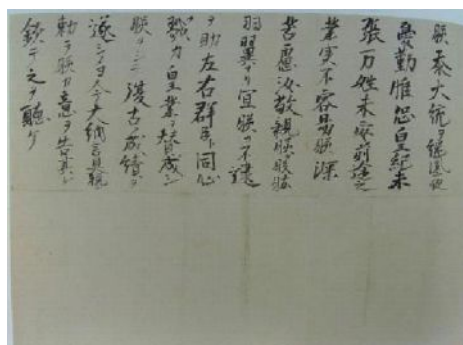
利通へ、長州藩主父子に宛てた密勅は藩士広沢兵助（真臣）に手渡され、それぞれの藩主の元へ届けられました。この勅書の形式は異例で、天皇の直筆ではなく、勅旨伝奏の中山忠能・三条実愛らの花押（署名の一種）もないもので、受理した当初からこの勅書は偽勅ではないかとする偽勅書説があったのです。そのためか、毛利・島津両家ではこの原本を長く秘し、学会に公表されたのは昭和になってからでした。しかし、この密勅が真勅・偽勅いずれであろうとも、この勅書が下されると、薩長両藩の主導による討幕運動は本格化し、山口では岩倉具視の命により錦御旗の製作が行われました。そして、その錦御旗を掲げた討幕軍は、慶応四年（一八六八）一月鳥羽・伏見の戦から翌年の北海道函館五稜郭の戦にかけて、国内統一に向けた戊辰戦争を行い、勝利しました。

同三年十二月、朝廷は「王政復古の大号令」を発し、江戸幕府を廃して政権を朝廷へ移すことを宣言し、新たに総裁・議定・参与の三職を設置し

て、神武創業のはじめに復することを新政の理想として掲げ、明治天皇が踐祚（皇位を継承すること）されました。ここに二百六十年余存続した江戸幕府が崩壊して、近代国家・明治新政府が誕生したのです。

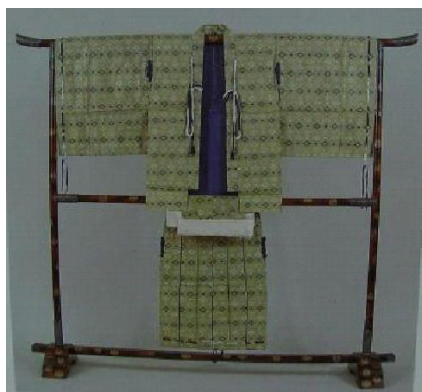
○幕府崩壊後、朝廷と毛利家の関係はどうなったのですか。

明治二年（一八六九）二月、勅使萬里小路卿が山口に到り、藩主毛利敬親に宛てた天皇宸翰と直垂一領を下賜されました。宸翰の趣旨は、徳川幕府が倒れ、急遽新生日本丸の舵取りを任された明治天皇が、「日夜寢食を忘れて政治の舵取りに携わっているが前途は多難である。ついては、我が臣毛利敬親よ。私の手足となり、私の不足するところを補い、皇業が成り立つように私を助けて欲しい」という上京・扶助依頼の宸筆でした（写真5）。当時弱冠十八歳の



〔写真5〕 明治天皇宸翰勅書（毛利博物館所蔵）

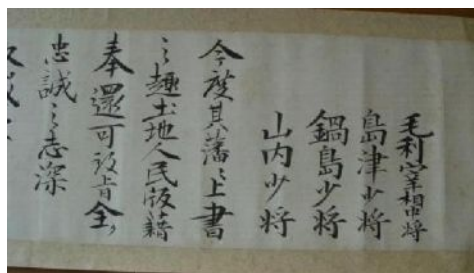
明治天皇が、人材や財源が不足する新政府において、新生日本を建設するに当たり毛利敬親に扶助を求めた宸翰で、毛利家に対する厚い信頼によるものでした。しかも、贈られた萌葱地小葵文様のある直垂は侍従以上の者が着用する礼服で、天皇がわざわざこの直垂を届けられた裏には、言外に「この直垂を着用して参内し、朕を扶助せよ」の意味が込められていたのです（写真6）。



〔写真6〕 萌葱地小葵文様直垂（毛利博物館所蔵）

この宸翰を受け取った毛利敬親は直ちに上京し、三月三日拝領した直垂を着用して参内し、親しく明治天皇に拝して天盃を賜われました。そして、毛利家中興の祖である毛利元就が正親町天皇の即位料を献上した故事に倣い、備荒貯蓄金百万両の内から大金七十万両を新政府に献上・扶助したのです。

○皇統に連なるという毛利家の立場が、維新にも影響しているようですね。



〔写真7〕 版籍奉還御沙汰書（毛利博物館所蔵）

同二年一月、薩長両藩主の主導のもとに、薩長土肥四藩主が版（土地）と籍（人民）を朝廷に還納する旨の建白書を提出・許可されると「写真7」、ほとんどの藩主がこれに倣いました。

同年六月、新政府は藩主を改めて藩知事に任命し、同四年（一八七一）には廃藩置県を断行して藩をなくし、中央集権の実を挙げるために旧藩主を東京に集めて勝手な帰郷を禁じました。毛利家の江戸屋敷は、すでに第一次長州征伐の際幕府に没収・破壊されていたので、新たに品川の高輪町にある総面積一万七千坪の旧久留米藩邸地を下賜され、翌五年（一八七二）には高輪（常盤）邸を新築して本邸としました。

その翌六年（一八七三）五月、突然、明治天皇が新築間もない常磐邸へ、お供人数六十三名と共に行幸されたのです。そして、その年の十一月には皇后・皇太后の行啓も予定され、常磐邸では行啓当日両陛下をお待ちしていたところ、途中の葵坂で皇后陛下のお召し馬車が転倒したため引き返され、改めて、翌七年（一八七四）五月、皇后、皇太后がお供人数六十七名と行啓されたのです。



〔写真8〕 東京・高輪（常盤）邸

天皇・皇后に加え皇太后様までが、新築祝を兼ねて臣下の邸宅にわざわざ行幸啓され、しかも、品川までの遠路を来臨されたことは、当時としても異例中の異例な出来事であったのです（写真8）。

毛利元就以来、朝廷に対する崇敬の念が篤く、一貫して尊王の立場で行動し、幕末維新の激動期を乗り越えて明治維新を迎えた毛利家にとって、この度の行幸啓は、永年にわたる毛利家の苦勞に報いる朝廷からの格別な配慮であり、勤王毛利家にとってはこの上ない喜びであったことと思われ

毛利博物館のご案内

毛利博物館では、九月四日から十月二十八日まで、長州藩主毛利氏の視点から明治維新を紹介する「企画展 維新への道」を開催し、今回紹介した「討幕の密勅」などの品々を展示します。

詳しくは、毛利博物館（防府市多々良一丁目一五二）電話〇八三五一二二〇〇〇 ホームページ <http://www.e-able.ne.jp/mouri-m/> までお問い合わせください。

◆企画展等情報◆

▼吉川史料館（岩国市横山町二・七・三）電話〇八二七・四一・一〇一〇）吉川経幹展（平成二十年六月十九日～九月十五日）

吉川経幹は、幕末期の長州藩において、本藩の国事周旋に力を尽くしました。所蔵資料をもとに経幹の事跡を紹介します。

▼伊藤公資料館（光市東荷二二五〇・一）電話〇八二〇・四八・一六二三）歴代総理大臣の書（平成二十年八月三十日～十月五日）

初代総理大臣伊藤博文をはじめ八人の宰相を輩出した山口県。歴代総理大臣の書・色紙から、その時代の宰相の思いを偲びます。

▼萩博物館（萩市大字堀内三五五）電話〇八三八・二五一・六四四七）明治維新一四〇年記念特別展 明治維新の光と影

（平成二十年九月十五日～十一月十一日）
戊辰戦争の第一線で戦った諸隊隊士の使用した品々を展示し、当時、「御一新」と称された明治維新の光と影に迫ります。

「あとかぎ」二回にわたり、毛利家と天皇家の關係にスポットを当てて幕末維新史をみてきましたが、残された数々の資料から維新の重みを感じずにはいられません。次号は九月発行の予定です。維新史回廊だよりは、県内各市町の文化振興担当課、博物館・資料館及び県政資料館に置いてあります。また、企画展の詳しい情報や維新史回廊だよりのバックナンバーは、維新史回廊ホームページ（<http://www.pref.yamaguchi.jp/gyosei/bunka-s/shin/index.html>）へアクセスしてください。